

稲田 和巳

稲田和巳 潮	Kazumi INADA <i>ushio</i>
	
2.18 土 — 4.8 日, 2023 木 金 12:00–18:00 土 12:00–19:00 月 火 水 日 祝 閉	2.18 sat — 4.8 sat, 2023 thu & fri 12:00–18:00 sat 12:00–19:00 mon, tue, wed, sun & holiday 閉
現代芸術振興財団ギャラリー 東京都港区六本木 6-6-9 ビラミデビル4階	Contemporary Art Foundation Gallery piramide bldg. 4f, 6-6-9, roppongi, minato-ku, tokyo
	

この度、現代芸術振興財団は稲田和巳個展「潮」を開催いたします。稲田は、自身や身の回りの外界を計算機を用いて構造化し、観察することを試みてきました。作品を制作するアーティストであると同時に、背後にあるテクノロジーに携わるエンジニアとして活動することも特徴です。その作品は、稲田が「観測装置」と形容するように、見るもの自身が主体的に読み解き、我々の生きる世界への解釈を見出すことを促します。本展では、シミュレーションシステムを構築し制作するメディアアート作品の新作を展示します。

潮(六本木) - 標高地形図

潮(六本木) - 陰影起伏図

潮(六本木) - データレイヤ

潮(六本木) - 観測装置

潮(六本木) - 観測装置の構成

潮(六本木) - 観測装置の構成

潮(六本木) - 観測装置の構成

潮(六本木) - 観測装置の構成

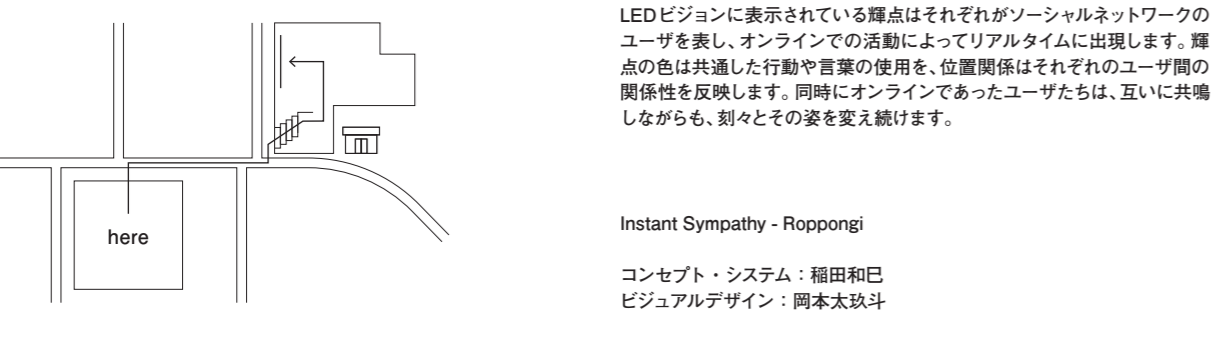


関連展示

《潮》と同じく、データを通じて社会を観察する作品として、インターネットユーザの活動からコミュニティの構造をシミュレートする過去作《*Instant Sympathy*》を展示します。

Instant Sympathy - Roppongi

Instant Sympathy - Roppongi



ラピロス六本木 ショーウィンドウ 会期中無休

本ビルを出て右、ファミリーマート手前の階段を上がって左

rev. 2

rev. 2

rev. 2

rev. 2

rev. 2

稲田和巳 Kazumi INADA

1997年、大阪府生まれ。2021年より筑波大学大学院に在籍。アーティストとして、主な活動に「亀山トリエンナーレ2022」(三重・2022)、「CAF賞2021」(東京・2021)、「住人たち 再制作と展示」(茨城・2021)、「つくばメディアアートフェスティバル2021」(茨城・2021) など。その他の活動に「中高生のための研究サポート動画」(ディレクション・2022)、「つくばSKIPアカデミー プログラミング実習」(教材設計と講師・2022) など。

主催 公益財団法人現代芸術振興財団
グラフィックデザイン 岡本太玖斗
会場協力 Space roppongi
施工 HIGURE 17-15 cas／株式会社オール

Instant Sympathy - Roppongi

Concept & Development : Kazumi Inada
Visual Design : Takuto Okamoto

各展示物は、場所に紐付けられることができる社会統計データをそれぞれの地点の「標高」とした、仮想の地形モデルを用いたものです。たとえば地価統計のデータでは、統計が取られた地点ごとに、価格の相対的な高低を地形上の高さに変換しています。得られたまばらな点の間を数理的に補完することで、地形の「地面」ができます。

本展では複数のデータセットを地理的場所によって組み合わせることで地形を生成し、その上に水や土砂を思わせる粒子を流すシミュレーションの様子を提示します。経済・環境・情報など異なる切り口で社会を表すデータを複合的に重ねるとつれ、地形は有機的で解像度の高いものとなり、自然の産物のような複雑性が徐々に現れます。

制作にかかる数理的な処理はコンピュータアルゴリズムで実装されており、地形・稜線・粒子の流れは、作家の主観的意思を介することなく生成されています。鑑賞者の目に直接触れることこそありませんが、モデルを生み出しているこれらのシステムこそが、《潮》のまさに主体であると言えます。

・等高線の間隔が狭い箇所は急な斜面を、広い箇所は緩やかな斜面を表します。

・陰影起伏図は、立体の地形に北西（315°、画面左上）の方向から平行光を当てた様子を示します。光の方向に向いた面は明るく、逆方向に向いた面は暗くなります。

・直感的には統計値の大きい地点をより高く設定しますが、本展においては粒子が重力により統計値の大きい地点に集まるように、統計値の大きい地点がより低くなるようにしています。

展示の作品には、国土地理院オルソ画像、国土交通省位置参照情報、OpenStreetMapをはじめとするデータを加工して使用しました。またopenFrameworks、Blenderをはじめとする、ユーザコミュニティにより維持されているツールを利用し制作しました。誰もが情報を自由に利活用できるオープンな社会への賛美を込め、これらのリソースの整備・開発に貢献してきたみなさまに謝意を表します。

